



Via Latina 22

2026 年 7 月 356 号

総本部よりのお知らせ－マリア会

内 容

トーゴ地区での初誓願式	1
カナダ地域共同体への訪問	3
2026 年、ナザレ会議	4
SM、FMI 総長評議員会、2026 年 6 月、Via Latina で開催	6
デイトン大学の工学科専攻学生、海外研修中にマリア会本部を訪問	7
Via Latina から 9 名が旅立つ	8
注意喚起：「いのちの約束」に関する共同体の考察の分かち合い	10
出 版 物	11
＊ ファステイーノ	11
＊ マリアニスト家族内で分かち合う資料	11
＊ 「ワールドカップ」のキックオフ、OK!	12

トーゴ地区での初誓願式

2026 年 6 月 21 日、日曜日、年間第 12 主日、トーゴ地区のマリアニストは、マリア会の規則に沿った修練者、ヨナス・ボズロトム・エッソドンダ・カプサとマリウス・コボヨ・ポコボロの福音的勧告の初誓願の機会にあたり、深い喜びと感謝のひと時を経験しました。

ヨナス士は、自分が生徒であったソトゥブアのロベール・マトレー技術専門高校でマリア

ニスト修道者と出会いました。彼は D 級、大学受験資格取得後、2023 年から 2024 年にカラの前修練院で 1 年間の養成を終えました。それから彼はコートジボアール、アビジャンでの 2 年間の修練期でマリアニスト修道生活への修練期を継続しました。

マリウス士については、マリアニスト修道者になりたいとの彼の望みはトーゴ、ロメのマリアニスト修道者との接触から生まれました。彼は、ロメ大学での近代史の学位取得後、2023 年にカラの前修練期に入りました、2024 年から 2026 年に彼はアビジャンの修練院でマリアニスト修道生活の養成を受けました。



左より：ヨナス・カプサ士、ヨナス・クパチャ師とマリウス・ポコボロ士

トーゴ、ペナンとガーナのマリアニスト共同体と修道者たちを含むトーゴ地区は、彼らをマリアニスト家族へ迎えて喜んでいます。

荘厳ミサは午前 9 時よりカラのシャミナード高校の大ホール〈シンカーアロフィシアター〉にて始まりました。ミサは地区長、ヨナス・ホダバロ・クパチャ師によって司式され、彼らの誓願を正式に受け入れました。このミサは他のマリアニスト司祭 3 名と小教区司祭 2 名の共同司式でした。ヨナス神父は、彼の説教の中、誓願宣立者に対して、祈りと神のみ言葉についての念祷を基本とすることによって、勇気と忍耐をもって生きるよう招きました。

学校の聖歌隊が美しい、喜びの讃美歌で典礼を盛り上げました。多くの信者、親族のメンバー、そして招待者が集まり、この新たな誓願宣立者に寄り添いました。同様にマリアニスト家族の全ての枝がこれに出席していました。

式典はお祝いの食事に参加者全員が集まり、兄弟的分かち合いを持って終了しました。全ての人が喜びに満ちた心で帰路につきました。



マリア会員たちと2人の教区司祭に囲まれた新しい誓願者たち

カナダ地域共同体への訪問

霊生局長、パブロ・ランボー師が6月9日と14日の間、カナダ地域共同体を訪問しました。この共同体は7名のマリアニスト修道者によって構成されています、彼らの殆どがそれぞれの居住で生活しています；彼らの2名だけがノートルダム・ド・フォワ・キャンパスの共同体で生活しています。

数名の修道者が、カナダでCLMによって運営されているサン・アンリ信徒養成センターを手伝っています。パブロ神父は彼らの住居に全修道者を訪問することが出来ました。



ノートルダム・ド・フォワの像の隣に立っているカナダ地域共同体のメンバー5名 左より：ポール・アルチュール・ジルバール、ジェラルド・ブレ、ユージェヌ・コテ、フロリアン・ロワイエ・シャボ(地域共同体の上長)、そしてレイモン・ブタン

6月12日の午後、5名の修道者がノートルダム・ド・フォワ共同体で兄弟的会議のため、パブロ神父と会いました、そこで彼らはカナダの地域共同体の現状について話し合い、そしてパブロ神父が世界でのマリア会の状況を報告しました。

6月13日、土曜日、パブロ神父はレイモン・ブタン士とジェラルド・ブレ師と共に CLM とサン・アンリ信徒養成センターにて計画されたトロワ・リヴィエールにあるノートルダム・デュ・カップの聖地への巡礼に参加しました。巡礼の締め括りのミサの中で CLM メンバーは彼らの誓約を更新しました。また何人かの新たな奉獻がありました。



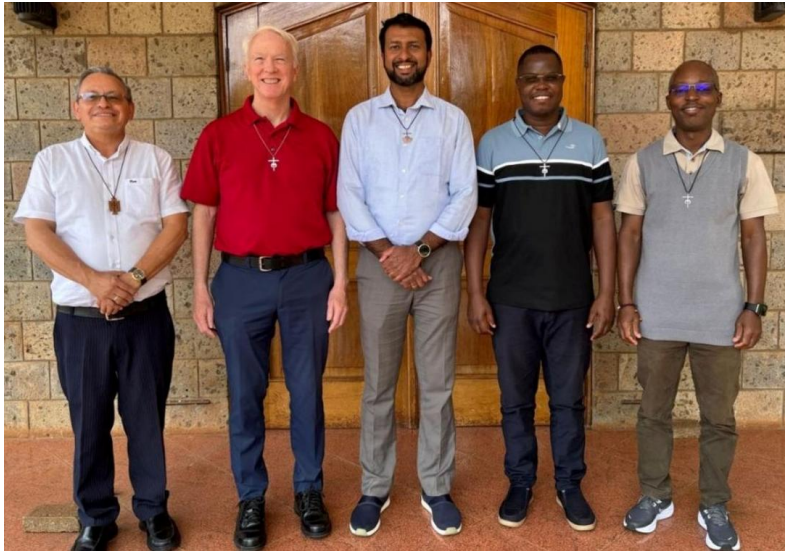
カップ・ド・ラ・マドレーヌ(ケベック州トロワ・リヴィエール)のノートルダム・デュ・カップ巡礼中に、CLMのメンバーによるマリアへの奉獻の更新

カナダの CLM への新しいメンバーの加入は、聖霊がマリアニスト生活への新しい召命を起し続ける一つの印です。私たちはマリアニスト家族のこれら新しいメンバーについて神に感謝し、そして、カナダのすべてのマリアニスト家族メンバーのために祈りを続けます。

2026 年、ナザレ会議

VL22 (355 号、2026 年 6 月) の前回の発行版で報告したように、5 月 18 日から 6 月 3 日にかけてケニア、ナイロビにてマリア会の養成者会議が開催されました。

ジョイジー・プラス・エグンジョビ師の指導によるプログラムの最初の部分は、何よりもまず、初期養成の人間的側面を見直すことに時間を当て、そしてこれを続けて、第 2 の部分は養成のあらゆる側面：人間적、靈的、修道者的、マリアニスト的側面を、キリストとマリアとの関係を中心におくことを強調しながら、どの様に統合するかに焦点を当てました。



マリア会の5名の修練長たち 左より：カルロス・フリオ・バラガン(ラテンアメリカ地区)、エドワード・ブリンク(米国管区)、ジヌ・ムトゥカッティル(インド地区)、ダニエル・オデロ(東アフリカ地区)、エリー・オカ(コートジボワール従属地区)

この会議から出てきた結論の中で、私たちは次の点を強調しました：

- * 志願者を特定し、彼らに同伴し、彼らを評価するのを助ける方策を改善するために、養成の初期段階で、心理的・霊的テストを導入する必要性。この意味で、出来るだけ本物の召命識別を行うために、これは同伴と個人的成長に焦点をあてる「養成の文化」を進展させようとしています。
- * デジタル世界から私たちに及んでくる課題に直面する必要性。デジタル世界は、一方では既に私たちの生活の一部になっているので拒否することは出来ないが、しかし他方ではそれを識別し、私たちの奉獻生活に適応させなければなりません。
- * 各行政単位において、また同時に国際レベルでも、トレーナ間のチームワークの重要性。それは多分共同のデジタル図書を作って、資源、手段、そして有効な実践を共有しながら、行政単位間の協調を徐々に進展させることを意味します。
- * 共同体と行政単位内で課題に向き合うこと。なぜなら、時々私たちは、私たちの養成プログラムに影響を及ぼす召命不足に直面して、十分な識別もなく志願者募集のプレッシャーを感じるからです。それはまた、どのような文化や共同体の慣習が成長を妨げ、何を変える必要があるかを再検討する価値があるのかもしれない。
- * 初期養成の先を見据えて、私たちは誓願を宣立した会員のためにも心理的・霊的養成を提供する必要性と、将来の養成者を準備する重要性を認識しました。

これらすべては私たちの現行の「養成ガイド」のための示唆を有しており、この養成ガイドは近年中に改定され、アップデートされる必要があります。



2026 年ナザレ会議の最終評価および総括セッション

SM、FMI 総長評議員会、2026 年 6 月、Via Latina で開催

マリア会（SM）と汚れなきマリア修道会（FMI）の総長評議員会が年 2 回の会議のため、2026 年 6 月 17 日、水曜日、マリアニストの生活と統治に関する共同考察を継続するため Via Latina のマリア会総本部に集まりました。

評議員は最近の教会法上の視察からの最新情報につき意見交換を行いました、特にエクアドルとマラウイ（FMI）、そしてトーゴと韓国（SM）に関することです。彼らはまた、共同の養成プログラムでの進行中の協力、特に、Horizons 2026、エクアドルでの教育事業のような現在共有しているイニシアティブについて検討しました。



この会議の重要な部分が、行政単位、その上長たち、および彼らの評議員に同伴する最も良い方法に関して、もっと考えを深めた会話に充てられました。2つの総長評議員会は、統治における責任の分かち合いと相互支援の重要性に光を当てながら、教会法上の視察をより効果的、参加的、そして行政単位のリーダーシップと協調的にする方法を研究調査しました。

この評議員会はまた将来の協力の可能性についても協議しましたが、その中には次の内容

が含まれています：① マリア会によるベトナムでの創設の可能性、② マリアニスト家族内で経験と支援の分かち合いから、このようなイニシアティブはどのように益をもたらすか。

前回の会議でのように、この集まりは両方の評議員会がその協調を深め、見通しを分かち合い、そして今日の修道生活に必要なものと課題に応える実践的方法を識別する貴重な機会を提供しました。

デイトン大学の工学科専攻学生、海外研修中にマリア会本部を訪問

6月9日、火曜日、デイトン大学の34名の学生と教師会メンバー3名が、祈り、対話、総本部資料室訪問、そして夕食のため、ローマのマリア会の総本部を訪問しました。この訪問はイタリア、フィレンツェを拠点とした4週間の工学科学生のプログラムの一環としてローマでの彼らの2日間の滞在の間に行われました。

本部で、このグループは総本部、および神学校共同体のメンバーと会って、世界規模の文脈におけるマリアニストの生活と宣教について学びました。学生たちはまた国際資料室を訪れ、福者 G-J シャミナードの直筆書簡を含む色々な歴史的資料を目にしました。



アーカイブ担当のアントニオ・ガスコン神父が、デイトン大学の工学科学生に重要な歴史的品々を紹介します。

この訪問には、主聖堂でのイタリア語と英語で歌う晩課が含まれていました。その後、夕食のためテラスに移り、本物の“ローマ・ピザ”とゼラート（アイスクリーム）を分かち合いました。



デニス・パウティスタとホセ・イグナシオ・イグレシア両士が、デイトン大学の工学科生に、フィレンツェでの 4 週間の留学体験やマリアニスト大学での学生生活について語ります。

工料科の教授、ジョセフ・サリバ氏のことは：「私たちの学生は、総長と、あなた方の共同体の全てのメンバーと出会い、交流する機会を得て深く感謝していました。帰国途中、私は幾人かの学生が、祈りの時間と、音楽と聖歌にどんなに心打たれたかについて話しているのを聞きました。それは彼らにとって実に美しく記憶に残る経験でした。」 サリバ氏はさらに、「共同体の優しさ、温かさ、そしてマリアニスト生活に対する証しはこのグループの上に長く続く印象を残した」と付け加えました。

Via Latina から 9 名が旅立つ

2026 年は、Via Latina の共同体のほぼ三分の一を占める 9 名の会員が旅立つ、というこの特異性で記憶に残ります。それは小さなことではありません。

彼らの中で、5 月 9 日に神学 3 年生 7 名が助祭に叙階されました：ジェジェ・イヴ・アグバドゥ (IV)；パトリック・ケイヒル (ME)；クリストフ・ムボンデ (FR)；チシャラ・ホゴサ (EA)；ギルバート・オカデ(EA)；ダニエル・オレリャナ(LA)、そしてノガシダ・ラウル・ルアンバ (IV)。私たちは総本部と神学校共同体で私たちと生活を共にした年月について彼らに感謝します。私たちは、彼らが自分たちの行政単位に於いて司祭叙階を準備するにあたり、彼らに私たちの祈りを約束します。

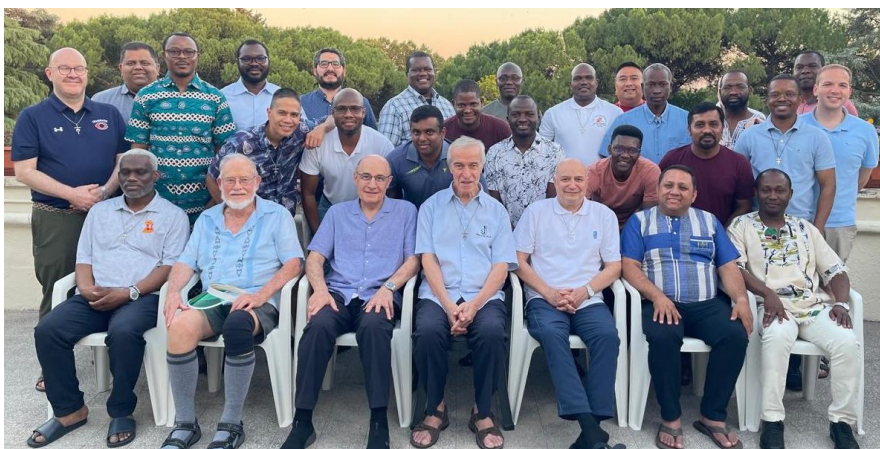
神学校の校長、ミゲル・アンヘル・コルテス神父は、Via Latina 22(348 号)の 12 月発行版で既にお知らせの通り、やはりスペインの彼の行政単位に戻ります。私たちは、私たちの将来の司祭の養成で彼が果たした見事な 6 年間と、そしてマリア会の総代理としての奉仕についてももう一度彼に感謝します。7 月の終わりに、ケニア (東アフリカ地区) 出身のマイケル・オティエンノ・オチエン師が後任となります。



Via Latina 22 を離れる 9 名の会員

アントニオ・ガスコン師もスペインに戻りました。来年、彼は彼の管区の奉仕活動でマドリードに居るでしょう。20 年以上のローマ在住の間、彼は幾つもの任務を遂行しました：マリア会資料室長（AGMAR）、この任務はフランス地区のエディ・アレクサンドル師に引き継がれました；2 つの修道会（SM と FMI）の列聖請願総代理、この任務は FMI のシスターフランカ・ゾンタによって引き継がれました。（cf. VL 22 349 号、2026 年 1 月）；総本部共同体の上長、東アフリカ地区（EA）のエリック・オティエンデ士によって 5 月から引き継がれています（cf. VL 22 355 号、2026 年 6 月）。

私たちはこれらの責務を通してなされた多くの奉仕に関して彼に心から感謝します。彼の活動の実りの中で、私たちは全 5 巻 7 分冊で 6642 ページにわたるマリア会の不朽の歴史記述に注目することが出来ますが、同時に、次の成果にも注目出来ます：尊者として布告されたファウスティーノ・ペレス・マンガラーノ（2011）、ドミンゴ・ラサロ（2019）、そして、ヴィンセンテ・ロペス・ウラルデ（2023）、そして列福された、マドリードの 4 名の殉教者（2007）、メール・マリー・ド・ラ・コンセプション（アデル・ド・バッツ・ド・トレンケレオン）（2018）たちです。



Via Latina 22 のマリア会会員 2026 年 6 月 13 日

6月13日、土曜日、祈りとお祝いの夕べにおいて、Via Latinaの2つの共同体は9名の同僚を祝って、彼らのマリアニストの旅の素晴らしい継続を願いました。私たちは、彼らのマリアニスト生活へのあかしと貢献について神に感謝しながら、私たちの祈りを彼ら全員に約束します。私たちは彼らが私たちの間にいるのを見ていつも嬉しく思うでしょう。



左より：次期神学校校長、マイケル・オチエン神父(EA)、アーカイブ担当者兼列聖請願総代理、アントニオ・ガスコン神父(ES)、現神学校校長、ミゲル・アンヘル・コルテス神父、とエルヴェ・ダグボ士(IV)が現神学校副校長

注意喚起：「いのちの約束」に関する共同体の考察の分かち合い



3月に、共同体は第36回総会、「いのちの約束」、の前文に関して考察を求める書簡第4号を受け取り、その考察から出てくる何らかの洞察や考えを分かち合うよう求められました。思慮深い多くの回答が既に提出されました。これらの貢献は、共通の方向性を具体化し、総会の呼びかけについて団体としての理解を深めるのに役立ちます。

未だ回答していない共同体はその考察をここに提出するよう要請されています：

<https://form.jpform.com/250825800333048>

前の書状へのリンク：[書簡第3号](#)（2025年9月）[書簡第2号](#)（2026年3月）[書簡第1号](#)（2024年12月）

全世界の行政単位と共同体が総会の考えをどのように実行に移しているかの一例です：

東アフリカで実践中の総会の要請

第36回総会の呼びかけを受けて、東アフリカ地区の修練院共同体は「若者グループと考

える一日」を計画しました。この集まりは「いのちの約束」というテーマに関して意味深い対話、祈り、そして考察の分かち合いの機会を提供しました。一日を通して、修練者と若者たちはお互いに関わり合い、総会のビジョンについて話し合い、そして自分たち自身の生活と共同体において総会の呼びかけに自分たちはどのように応えられるか、について一緒に考えました。この経験は、若者に同伴し、希望を育て、そしてマリアの宣教へ身を捧げる信仰の共同体を築く総会の求めに対する具体的な表明でした。



出 版 物

フアステイーノ

尊者フアステイーノの列聖調査に関して出版された小冊子は3か国語で、次のリンクを経て入手出来ます：[フアステイーノと共に 2026年、報告書44号](#)
これらを読み分かち合うよう要請します。

マリアニスト家族内で分かち合う資料



私たちは皆さんと、最新の「新しいワインニュースレター」14号を分かち合えることを嬉しく思います、タイトル「マリアニスト家族としての資料の分かち合い」はSMのCEMASの調整役ホセ・イグナシオ・イグレスア士から送付されました。

この通報を読むには次のリンクをクリックしてください：[Newsletter](#)

「ワールドカップ」のキックオフ、OK!



イタリアもマリア会も、今年のワールドカップで戦うチームを持っていませんが、それでも 2026 年 2 月の視察訪問の時、総長評議員会はトーゴ地区から贈られたサッカーのジャージを着用し、その雰囲気に入っています。

最近の総本部通信

- 訃報：5－8 号
- 6 月 30 日：新ワイン、通達 14 号、3 か国語で CEMAS 調整役、ホセ・イグナシオ・イグレシア士から CEMAS の指導者たち、ゾーン議長たち、行政単位上長たち、養成センター長たち、CMFM のメンバーに送付

総本部の日程

- 7 月 1－31 日：霊生局長、パブロ・ランボー師と教育局長、デニス・バウティスタ士がスペインでの Horizons 養成プログラムに参加
- 7 月 20－23 日：総長、アンドレ・ジョゼフ・フェティス師がスペインでの Horizons 養成プログラムに参加

メールアドレスの変更

アントニオ・ガスコン師 (ES) : Antonio.gascon@marianistas.org

ミゲル・アンヘル・コルテス師 (ES) : macortes@marianistas.org